

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園

平成27年度の教育活動等に対する学校評価書

平成28年3月3日実施

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園長

山本 環

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員長

野田 亜樹子

学校法人鈴木学園しらゆり幼稚園学校関係者評価委員

鈴木 麻美 ・ 北畠 良子 ・ 竹内俊二

教育理念	真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。 幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。 しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通して、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。
教育方針	孝友三心 一、親を思ふ心 一、友を愛する心 一、自分をみつめる心
教育目標	一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子 自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心(親を思う心・友を思う心・自分を見つめる心)』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。
本年度の重点目標	『 身近にある環境を生かし、遊びを充実させる 』 ○体育館や園庭を活用し、体力づくりの向上を目指す。 ○伝承あそびや集団あそび、自然物を使った遊びを多く取り入れ、友達との関わりを楽しめるようにする。 ○外国人教師とのふれあいを通し英語に親しむことができるよう、積極的に機会を設ける。 ○しらゆりファームや菜園を美しく保ち、幼稚園のイメージアップをはかるとともに、植物や野菜の世話をすることの楽しさや命の大切さを学ぶことに繋げていく。 ○教職員一人ひとりが専門知識をより多く身につけ、得意分野を教えあい補いながら、更に質の良い保育へと繋げていく。 ○自己研修で得た成果を発表し、資料としてまとめたり、他の教職員に伝えることにより、お互いのスキルアップをはかる。 ○一人ひとりが専門知識をより多く身につけることにより、質の良い保育へと繋げていきたい。
財務	○全教職員が経費の削減を心掛け、行動する。 ○入園児を増やすための様々な施策を検討する。
顧客	○美しく整備されたしらゆり菜園・ファーム、外国人教師とのふれあい、数の概念の学習など、しらゆり幼稚園の特色を保護者や外部者に発信し、アピールする。
業務プロセス	○園の自然を使用した遊びや、伝承あそびを多く取り入れ、友達とのかかわりを楽しめるようにする。 ○英語、数を意識する活動やあそびを取り入れる。
学習と成長	○教職員一人ひとりが更に専門知識を身につけるよう心掛け、スキルアップをはかる。

自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

* 自己評価は、4（はい）、3（大体あてはまる）、2（あまりあてはまらない）、1（いいえ）の数値で表す

* 委員会評価は、4（十分に成果があった）、3（成果があった）、2（少しの成果があった）、1（成果がなかった）の数値で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
I 保育の計画性	園の教育理念や教育目標を理解し、幼児の実態に即した指導計画を作成し、活動の展開に応じて幼児が主体的に関わりたくなるような環境を再構成している。 自分の保育に対し、常に評価・反省をおこない、次の保育に生かせるようになっている。	3.3	新規採用の教員がいたため、【教育課程の編成】を重視して指導計画を作成したことにより、重点目標も盛り込んだ指導を展開することができたと思われる。 昨年度は取り組みが少なかった《縦割り保育》を年間を通じて計画・実施することができた。今後はさらに内容を検討し、充実した縦割り保育を計画していきたい。	4	恵まれた自然環境の中、日々の天候に合わせ、戸外・室内で体を目一杯動かす等、理念・方針・目標を達成しているように思われる。 新人の先生がいて不安もあったが、しらゆりらしさは変わらなかった。 縦割り保育により、他学年への興味・憧れなどの気持ちを持ち、チャレンジ精神が出た。他学年との交流で良い変化を感じた。
II 保育の在り方、幼児への対応	怪我や事故、体調管理には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている。 一人ひとりの幼児をよく観察し、発達の姿や課題について見通しを持って理解している。 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方を工夫し、幼児が行き詰っている時に適切な援助をしている。	3.3	登園時と降園時の視診を特に大切にし、子ども達の体調の変化、怪我の有無を確かめている。 園内に危険な場所がないか常に気を配り、異常箇所は直ちに修理している。 発達などが気になる幼児については全教職員で話し合い、一人ひとりにあった援助を心掛けている。 幼児の発想を遊びや指導に取り入れるようにしている。 また、幼児同士のトラブルに対しては年齢に即した対応を心掛け、自分達で解決できる力を育てている。	4	個人個人の興味・関心に応じた対応、また苦手分野などにも挑戦してみようという声掛けなど、適切な援助をしていると思われる。 子どもの体調などに配慮し適切な対応を取っている。病気や怪我への注意喚起のおたよりや除菌水噴霧など環境を整えたり対応していると思う。
III 教師としての資質と能力	全ての幼児について教職員同士で話し合い、共有理解をするように心がけている。 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている。 保育外でも教師としての誇りと自覚をもった言動をこころがけている	3.5	幼児の姿やクラスの環境構成などについて意見を交換しあうようにしているが、他クラスの保育を観る機会が少ないので、次年度は教員同士が授業参観できる機会を設けたい。 幼児や保護者に対して常に公平に対応するよう心掛け、必要なことは園長や主任に報告・連絡・相談できる場を設けている。 毎日の打合せで鈴木学園の理念や行動基準について意見を述べ合い、自他の資質向上に努めている。	4	教師としての仕事がある中、保護者の気持ちに寄り添い、対応しているように思われる。 学年やクラスに関係なく、全ての子どもを知り、対応してくれていると思う。 子どもの出来事や情報を先生方が把握されていて、普段から先生間で報告・連絡がしっかりされていると感じる。
IV 保護者への対応	保護者からの相談などには心を開いて、よく話をきくように心がけている。 保護者・園児の個人情報はしっかりと管理し、漏えいしないように注意している。 クレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談している。	3.5	保護者から相談があった時は内容により主任や園長にも相談し、すぐに回答するように心がけている。 相談のない保護者への連絡が少なくなってしまう。 気軽に相談できる方法を検討していきたい。 重要書類の扱い方のルールを決め、情報の流出には特に気を配っている。 クレームは個人で処理せず、全教職員で共通理解し対応している。	4	保護者の話をよく聞き、信頼関係を築けていると思われる。困ったことがあった時など、すぐに対応してくれるので、不安や心配がある保護者には心強い。 スクールバス通園とマイカー通園では、先生と保護者のコミュニケーションの度合いに差が生じているのではないかと不安を感じる。普段の様子を時々でも伝えてもらえる手段があると良い。

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
V 地域の自然や社会とのかかわり	地域の人々とかかわりを持つように心がけている。 地域の自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めている。 小学校との連携に努めている。	3.4	園外散歩などに出かけ、一般の人々と触れ合う機会を多く持つようにしている。 幼稚園周辺の道路は歩道がなく危険なため、菜園に出かける際は特に交通安全に注意している。 地域の小学校・中学校との交流学习を取り入れ、連携に努めている。	3.5	定期的に行く園外散歩は幼稚園とは違う良い社会勉強になっている。 路上歩行訓練など、実際に道路を歩く訓練などを行い、保護者への啓発などもあり、良いと思われる。 一般の人や地域の人とかかわる機会は少ないと思われる。地域の人の目は防犯上でも大きな力になると思う。
VI 研修と研究	園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している。 発達障がい、アレルギーなど今日的課題に関する自己研修に取り組んでいる。 災害・不審者侵入など危機管理について自己研修を行ってる。	2.9	教職員一人ひとりが年に1回以上は外部研修に参加し、園内研修で報告するよう努めているが、なかなか時間が取れず、報告が遅れ気味である。 今日的課題に関する研修の重要性は理解しているが、日々の保育を充実させることに時間を費やしているため、自己研修に取り組めていない。	3	発達障がいやアレルギーはこれから増加すると思うので、先生方がいろいろ学んで対応してくれると心強い。 進んで外部研修への参加や報告の努力をされていることが毎日の保育の向上につながっているのだと思う。 先生方が様々な研修に参加していることを知らなかった。
VII 本年度の目標	身近にある環境を生かし、遊びを充実させる	3	今年度から英語講師を常勤で雇用し、全園児が触れ合える環境を構成することができた。 年中から《数の時間》を保育活動に取り入れ、自由あそびの時間も数を意識できる遊びを紹介できた。 菜園活動の取り組みが充実し、子ども達が主体的に活動に取り組む姿が多くみられるようになった。 《縦割り保育》を計画的に実施したことにより、自由あそびの時間も異年齢児が関わって遊ぶ姿が見られるようになってきている。	4	社会的要請、保護者からの要請などに応え、また、教師の計画などにより、本年度の重点目標を達成しているように思われる。 外国人教師とのふれあい、数の時間など、新たな環境づくりをしてくださって大変良かった。 菜園活動により、食への意識の変化や命の大切さをしっかり感じられる様になったと思う。
総合評価 及び 今後の課題	私立幼稚園教育にもっとも必要な教育理念や目標、指導計画についてはほぼ共通理解できていると思われる。 昨年度の反省にあった《異年齢児の交流(縦割り保育)》は年間を通じて計画的に実施することができたので、次年度からは内容を深めていきたい。 今年度は新規採用の教員が2名いたが、園内研修をしっかりと行い、しらゆり幼稚園の教育方針にのっとった教育ができたと思われる。 研修と研究は個人個人の意識により少しずつ取り組めるようになってきているが、日々の保育に影響しない取り組み方を検討していきたい。				
学校関係者評価 委員からの意見	情操教育等はすぐに結果が出たり、数値化して評価をするのが難しいが、教師の熱意、園児たちの生活の様子を見ると、成功していると思います。 先生方は可能な限り園児一人ひとりにあった対応をしてくれている。いろいろなことが吸収できる時期に、いろいろな大変をさせてくれるので、子ども達のより良い成長につながっている。 昨年度の反省点をすぐに対応、実行にうつし、園全体で意欲的に教育環境を向上させる努力をされているのだと実感することができる。 それぞれの評価項目について、園全体の努力と先生方個人の努力の成果があらわれ、より向上した教育活動状況になったのではないかと思う。 今後も課題に積極果敢に前向きに取り組んでいただけたらと思うので、園児・保護者も一体となってしらゆり幼稚園を盛り上げていきたい。				